



AIYES 通信

横浜スペイン協会会報

発行・横浜スペイン協会事務局 鎌倉市

年頭のご挨拶 — 新たな飛躍への挑戦 —

会長 下山 貞明

2007年、新春を迎え今年一年、皆様方のご健勝とご多幸を心からお祈りいたします。

また、会員の皆様には日頃より当協会の事業推進にあたり、多大なご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年、2006年度は会員相互の連携のもと、それぞれの事業を着実に実施いたしました。特に音楽サロンの「聖フランシスコ・ザビエル生誕500年記念コンサート」をはじめ、スペイン・サロンの「コロンブス没後500年記念講演」、絵画教室の「アンダルシア地方スケッチ旅行」など多彩なイベントを開催いたしました。

また6月には、ザビエルの末裔に当たるアルバロ・デ・マリチャール氏がジェット・スキーで台湾経由にて横浜ベイサイド・マリナーに寄港され、会員有志が歓迎いたしました。

さらに、当協会設立15周年を契機に協会の将来有るべき姿を見直す、ビジョン委員会を設置し、理事会ではその答申を受けました。今後この答申をもとに協会の歩むべき道を検討していきたいと思っております。

先般、ロンダ市のホセ・カベサ氏より、「3月下旬の桜の開花をロンダ市民が大変楽しみにしている」との知らせを受けました。私はこの桜の木が大きく成長すると共に、美しい桜の花が、日西両国の絆をたくそして強くしてくれるものと確信しております。

この一年「より充実したスペイン協会」を目標に、会員皆様方のいっそうのご協力と、ご理解を賜りたくお願い申し上げ、年頭のご挨拶といたします。



林屋顧問の「米寿をお祝いする会」開催される

林屋永吉さんの米寿をお祝いする会



2006年10月4日、この日は元駐スペイン日本大使で当協会顧問である林屋永吉さんの、88回目のお誕生日に当たりました。そしてこの日、林屋さんの米寿を祝って、東京都港区六本木にある国際文化会館でお祝いの会が催されました。

林屋さんの幅広い交友を示すかのように、各界から多くの方々がお見えになり、ご功績とご健康をお祝いする会となりました。

◀参加者にお礼の挨拶をする林屋顧問

アルバロ・デ・マリチャラル氏ジェットスキーで来浜

(Alvaro de Marichalar, Duque de Lugo・聖フランシスコ・ザビエル一族の末裔)

1549年8月15日布教のため我が国鹿児島にその最初の足跡を示し、2年半の比較的短い滞在の間に日本に大きな影響を残した聖フランシスコ・ザビエル。その聖ザビエルが当時のナバラ王国ザビエル城で1506年4月7日に誕生して以来、2006年は生誕500周年に当たりました。この記念すべき年に、その一族末裔に当たるアル



▲出迎いの会員と記念撮影

バロ・デ・マリチャラル氏が、世界の平和（パシフィック・ネットワーク）を訴求しつつ、ジェット・スキー（水上バイク）で横浜ベイサイド・マリーナ・ビジターズ・バースに6月27日午後1時45分着岸しました。

横浜スペイン協会からは、下山会長と共に十数名の会員が、スペイン国旗と、協会旗を掲げ出迎えました。アルバロ・デ・マリチャラル氏は1961年ナバラ県パンブローナ生まれの海洋冒険家であり、これまでも大西洋横断記録など数多くの記録を保持しています。今回は祖先の聖フランシスコ・ザビエルのアジアでの足跡を辿り、4月7日ザビエルの没した上川島（香港南）を出発し、マ

カオ・台湾・沖縄を経て6月11日鹿児島着、そこから平戸などザビエルゆかりの地で歓迎を受け、横浜に到着したのです。



▲歓迎会でマリチャラル氏と会長の熱い握手

***** スペイン・サロンへのお誘い *****

新しく会員になられた方々とその推薦者の方々は、ぜひスペイン・サロンにご出席されますようお願いいたします。

●2007年2月のスペイン・サロン：お休みです。

●2007年3月のスペイン・サロン

NHKラジオスペイン語講座の講師としておなじみの木村琢也先生に、スペインでの楽しい経験やラジオ講座の裏話など興味深いお話を伺います。どうぞお楽しみに！

日 時：2007年3月17日（土）14：00～16：00

場 所：横浜市民活動支援センター4階／研修室 I（JR桜木町駅下車徒歩5分）

講 師：木村琢也 清泉女子大学教授

参加費：会員 1,000円 一般 1,200円

●2007年4月のスペイン・サロン

スペインでの数々の冒険談を書いた「女ドン・キホーテ スペインをゆく！」（studio R.S.I. 2005年発行）の著者に楽しいお話をお聞きしたいと思います。きっと若さと勇気をもらえます。

日 時：2007年4月21日（土）12：15～14：45

場 所：かながわ県民活動サポートセンター4階／403号（横浜駅西口）

講 師：山田るり子会員

参加費：会員・一般共 500円

*お昼のお弁当ご持参ください。お茶は用意いたします。

歴史と文化を知るスペイン・サロン

●10月のスペイン・サロン

「知られざるスペインの田舎、ビジャミエルでの生活」

「La vida rural de una España desconocida (Nuestra nueva vida en Villamiel)」

講師：ジュアン・ドラド・ロペス（当協会元スペイン語講師／7月スペインに帰国）夫妻

日時：2006年10月17日（火） 13：30～15：30

会場：かながわ県民活動サポートセンター15階／1501号室



▲名コンビ、ジュアン講師ご夫妻

ジュアン先生ご夫妻が移住されたビジャミエルは、エストレマドゥーラ地方のカセレス県最北部の村で、800人の人口を抱える村です。緯度はイベリア半島のちょうど真ん中、ポルトガル国境から約20キロ東に位置します。村のあるシエラ・デ・ガタ（ガタ山脈）は、この地方の中でも、緑多い、知られざる秘境のひとつと言えるでしょう。歴史はローマ時代まで遡り、当時整備された石畳の街道などが残ります。

1940～50年代のピーク時には2,000人を数えた村民も、60～70年代にかけて、バルセロナ、マドリードなど国内の大都市はもとより、欧州各国へ4割近くの人が出稼ぎに向かい、一気に過疎化が進みました。50代以上の多くが出稼ぎの経験を持ち、彼らが定年を迎えUター

ンを始めた近年は、人口は若干の回復傾向にあります。村は完全な高齢社会で、老人たちは来る日も来る日も、村に7軒のバルで飽きることなくカードゲームに興じます。村人扮するクリスマスのベレン人形（Belén viviente）などの催しやお祭りは、貴重な娯楽です。

近隣の村の多くの住民が親戚関係にあり、ジュアン先生のようなまったくのforasteros（よそ者）が住まうことは稀で、容赦なく好奇の目が注がれます。ただ、ひとたび心を開けば、どこまでも親切にしてくれるのがスペイン人。「もうすぐ孫が生まれます」の一言をきっかけに、ご夫妻は急速にコミュニティーに溶け込みました。食べきれないほどの農作物が、毎日のようにどこからともなく運ばれてきます。怪我をしたときは、家畜の世話を後回しにしてまで、50キロの道を日に2往復もしてくれたそうです。わずか数百メートル先の店に買い物に行くのに、村人たちのお喋りに順に付き合わされ、帰宅まで2時間以上もかかるようなこともしばしばで、都会のせわしない生活に慣れたご夫妻は、環境への適応に随分苦労されたそうです。庭どころか、昼寝中の寝室にまで無断で侵入されるのは困りものですが、一昔前までの日本の田舎とよく似た人間模様が浮かびます。

産業は、オリーブやブドウ栽培を中心とした農業が85%、他は小規模な建設業、商店などのサービス業となっています。季節労働者としてアフリカや東欧などからの若干の移民も見られます。また近年、遅れを取っていたインフラ整備が始まりましたが、思うように資本の投下が行われていないのが現状です。労働者の平均所得は国内大都市の約半分にとどまりますが、現金収入は乏しくても、食糧はある程度の自給自足が可能のため、その日の暮らしに困るようなことはありません。

教育面に関しては、スクールバスのおかげで高等学校までの教育を受けることはできますが、残念なことに30%もの生徒が中途退学の結果に終わっています。周りに高等教育を受けた大人が少ないこと、教育を受けても地元では相応の仕事を得られないことが大きな原因でしょう。事実、就業可能人口700人のうち、80%までもが無職です。一方で、識字学級が開かれ、年配者たちが熱心に読み書きを学んでいます。

かつては「第二のガリシア」と呼ばれるほど雨に恵まれた地域でしたが、近年降水量が減少し、泉は枯れ、土地の急激な乾燥が始まりました。のんびり、ぐうたらなイメージを持たれがちなスペイン人ですが、暑さの厳しい夏場は、夜明け前から農作業を始めます。それゆえシエスタの習慣は廃れることなく、SIESTEAR（シエスタする）という辞書にない動詞が用いられるのは興味深いところです。

2002年のユーロ導入以来、物価も上昇し、古きよき伝統も急速に失われつつあるこの国で、ビジャミエルではまだまだ昔ながらのスペインに出会うことができます。辺りには、田舎家屋を改装して内装に趣向を凝らした宿泊施設（Casa Rural）が点在し、観光客も自然を満喫することができます。先生のお宅を訪ねる際は、事前の連絡をお忘れなく。（山田るり子）



▲満員の会場

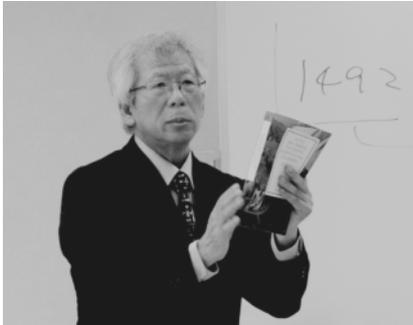
●11月のスペイン・サロン

「死してなお生きるコロンブス」その魅力と謎

講師：青木康征氏 神奈川大学スペイン語学科教授

日時：11月18日（土）13：30～15：30

会場：横浜市民活動支援センター4階／研修室 I



▲情熱的な青木先生の講演

2006年はザビエル生誕500周年がクローズアップされましたが、一方で彼と同じ年の5月20日、スペインのバジャドリッドでひっそりと亡くなったコロンブスの没後500年にも当たっていたことを知らない方々はいくつかもありません。スペインでは、特にバジャドリッド大学を中心に、コロンブスの生涯とその航海についての大規模な研究の書物も多く出版され、今再びコロンブスの謎解きや歴史的評価を考える動きも盛んです。そこでスペイン・サロンでも、神奈川大学の青木先生にコロンブスの魅力と謎の再発見をお願いしました。

コロンブスは、一般的に思われているような冒険家ではなく、また職業的な船乗りでもありません。実はカタイ（中国）やジパングというようなアジアの国への交易路を見つけ、ヨーロッパとの大陸間を直結、貿易ルートを開設、自らが通商の仲立ちをして独占貿易の利益を得ようとする、いわゆる「インディアス事業」という起業を目的としたビジネスマンだったのです。この事業プランに確固とした自信を持っていたコロンブスは、資金と王権という後ろ盾を得るため、契約の要求条件を提示しスペイン王室に売り込みました（決して安売りしなかった自信を裏付けるものは何だったのかは一つの謎）。そしてサンタ・フェ協約が成立し、コロンブスの大航海が始まり、結果的にスペインと世界を大きく変えていく歴史展開に繋がっていったのです。

彼の悲劇は、目指したカタイやジパングという王のいる文明国に行き着かなかったことです。途中で発見した島々は行政組織をもった文明国ではなかったと判断されたため、当時のヨーロッパの常識に従ってスペイン王の名のもとに領有しただけで、決してコロンブスの目的とする所ではなかったのです。歴史は彼の意図とは別に、新大陸の征服というアメリカ先住民からするとたいへんな悲劇の始まりになってしまった訳ですが。

コロンブスは情報を独占的に発信していて、例えば航海日誌もコントロールしていたとのこと。それは企業秘密を守るためだったのでしょうか。また自分の個人的情報である身元は明かそうとしなかったのは何故だったのでしょうか。ユダヤ人だったからではないかとの憶測まで生まれるほど、その前半生は謎に包まれています。

謎に満ちたコロンブス……彼の実像は永遠につかめそうにありませんが、少なくとも彼が非常に事業欲に燃えた起業家であつたらしいこと、自分の事業計画に対する自信と執念は大変なものだったことは青木先生のお話から良く分かりました。そして、一時の成功物語とその後に続く失意に充ちた展開など彼のドラマチックな生涯と、解き明かされるべき実証的証拠が見つからないミステリアスな部分を多く持つコロンブスについて、青木先生が情熱的に語られるお話に引き込まれて、あっという間に充実した楽しい時間が過ぎました。（寺原瑛子）

***** 文化講座からのお知らせ *****

♪♪ 「スペイン音楽サロン」へのお誘い ♪♪

ザビエル生誕500年記念コンサート第二夜開催

ザビエル生誕500年記念コンサート第二夜「ビウエーラ曲集」は、2006年9月21日に第一夜が開催されたのと同じ聖パウロ教会（東京目黒区）で行われました。前回と同じ今谷和徳氏の解説で、上島剛之助氏のビウエーラ演奏、真野めぐみ氏のルネッサンスハープと歌を、荘厳な雰囲気の中で堪能しました。ビウエーラはギターに良く似た発弦楽器で、16世紀のスペインの宮廷及び貴族が愛好したということで、作曲家ルイス・デ・ナルバエスなどにより、楽器のための曲や歌が数多く出版されたようです。ビウエーラのまろやかで柔らかい音色は、聴く人の心を和ませ、同時に心に沁みてくるような哀愁を感じました。

15分の休憩の後は、ルネッサンスハープの演奏と歌によって進められました。ルネッサンスハープはスペインで生まれた楽器で、現代のハープよりずっと小さく軽いのが特徴です。この楽器は、イギリスのウエルズ地方では、民族楽器として現在も使われているそうです。演奏された曲目は、ビウエーラのために作曲された曲ですが、楽譜に楽器の指定がなかったため、さまざまな楽器で演奏されたということです。

その頃のスペインはイタリアと深い関係にあったという時代背景からザビエルは、その日演奏された“二つのリュートのためのカノン”の作曲者、フランチェスコ・カノウ・ダ・ミラノと会っていた可能性があるというお話を興味深く聞きました。

そして、真野めぐみ氏の澄み切った声は、ビウエーラとハーブによく合い16世紀の宮廷の雰囲気を行彷彿とさせるものがありました。

第三夜の予定はつぎのとおりです。ぜひお出かけ下さい。

◆第三夜「ザビエル時代のミサ曲」

日時：2007年1月25日（木） 19：00開演（18：30開場）

出演：小池智子、小野田良子 他

曲目：アンチエータ：聖母のミサ曲 他

会場：聖パウロ教会（東急東横線 祐天寺駅下車 徒歩5分）

入場料：会員1,000円 一般2,000円



絵画教室 アンダルシア地方スケッチ旅行



絵画教室では2006年10月16日から30日までの15日間、指導の島津豪亮画伯を



▲島津画伯（水彩） アルハンブラ

チームリーダーとし、飯塚劬会員がガイド役となって、画伯のモチーフであるスペインの白い村々をめぐる、スケッチ旅行を行いました。

参加者は総勢11名。カディス県とマラガ県それにグラナダ県の、日本のガイドブックにはあまり載っていない白い村々を、貸し切りバスに乗ってスケッチの旅をしてきました。

この詳細は、順次参加者によってレポートしていただく予定です。

今回は会員の増田啓子さんです。



▲島津画伯（水彩） アルプハラ地方

会員投稿

スペイン・アンダルシア地方スケッチ旅行

増田 啓子

スペイン・アンダルシア地方と聞いて皆さんは何を思い浮かべますか？闘牛、フラメンコ、長い海岸線、青い空に輝く太陽、白壁の家々と窓辺の花、パエジャ、オリーブ等などある種スペインを象徴する風景、そんな地を、AIYES絵画教室の講師・島津豪亮先生をはじめ総勢11名が、10月16日から10月30日までの15日間、夏の喧騒が去ったトレモリーノスで、日本人女性が経営するホテルをベースキャンプにして、スケッチブックを片手に白い家の村々を訪れました。



▲参加の皆さんとホテルの庭にて

詳細な地図でもなければ載っていない小さな村に向かって、専用バスは海岸線から山深くへと走ります。点在する村々は訪れる観光客の姿もほとんどなく、静かな人達の生活がありました。シエラネバダ山脈の懐にあるパンパネイラ、ブビオン、カピレイラは特に印象的で、同じ山の中腹にひっそりと佇む風景は額縁の中の絵のようです。スケッチをしている私達に行き交う人々の目は温かく、「オラ！」の声で気持ちもほぐれてゆきます。どの人も私達を奇異の目でみることはありません。ある家から出てきた老婦人、私達に見せたい場所があると指差したのは家の裏手、目の前にそびえる山の頂でした。冬には雪で覆われるこの山



▲ミハスの白い家並

が地域に住む人々の心の拠り所、自慢なのでしょう。その素朴さに純な心を見た想いです。先生は絵を描いてプレゼント、全員の口から「いいな～」の声を背に、大切そうに抱えて家に帰って行きました。

白壁は定期的に塗り替えることを義務付けられているため、何処を訪れても美しく、青い空とのコントラストは見事なものでした。窓辺を飾る花も家ごとに個性がでて見飽きることはありません。こうして15日間は瞬く間に過ぎ、帰国前夜にはホテルでパエジャパーティーが開かれ、シェフには質問がとび、にわか料理教室となりました。メモをとりながら心づくしの料理に舌づつみをうち、何十回目の「サルー」でこの旅は終わりました。

*** 協会はスペイン語を楽しく学ぶ場を提供しています。そのクラスを紹介します。**

スペイン語教室紹介 アマポーラ (Amapola) 教室

スペイン語を楽しむアマポーラクラスは月曜10時半から10名の生徒でスタートします。学ぶ動機はそれぞれですが「みんな楽しく、無理なく少しずつ」をモットーに、着実に努力することでレベルアップを目指しています。

高柳先生はいつもみんなの顔を見て「ブエノス ディアス ア トドス」から始めます。教科書はESPAÑOL 2000 nivel elementalを使っていますが、その他に各自自由なテーマでスピーチをし、その指導もしていただいております。先生はいつも聖母マリアの精神で優しく、辛抱強く、丁寧に私たちを指導して下さいます。

スペイン語のレベルは色々ですが学習する中でスペイン旅行の話や、スペイン音楽や映画の話の話を聞いたりして一層興味が深まっております。基礎から、文法からスタートしたい方は是非、覗いてください。(一受講生)



▲高柳先生を囲んでのクラスのみなさん

2007年スペイン各地の主な祭りカレンダー (上期)

スペイン政府観光局情報から主な祭りをお知らせします。

1月

17日※	サン・アントニオ・アバッド祭 FIESTAS DE SAN ANTONIO ABAD	ラ・プエブラ (マヨルカ島)	*
20日※	太鼓祭り TAMBORRADA DE SAN SEBASTIAN	サン・セバスティアン www.sansebastianturismo.com/tamborrada	*

2月

1~3日※	悪魔の祭り LA ENDIABLADA	アルモナシッド・デル・マルケサド (クエンカ県)	*
5日に近い日曜日	サンタ・アゲダ祭 FIESTAS DE SANTA AGUEDA	サマラマラ (セゴビア県)	*
都市によって異なる	カーニバル CARNAVAL	全土 (特に、カディス (2月15日~2月25日) www.carnavaldecadiz.com 、ラス・パルマス・デ・グラン・カナリア (2月2日~2月24日) www.laspalmascarnaval.com 、サンタ・クルス・デ・テネリフェ (2月9日~2月21日) www.carnavaltenerife.com が有名	***
未定	闘牛カーニバル FIESTAS TRADICIONALES CARNAVAL DEL TORO	シウダッド・ロドリゴ (サラマンカ県) http://www.ciudadrodrigo.net	**

3月

12~19日※	サン・ホセの火祭り FALLAS DE SAN JOSÉ	バレンシア (張子人形の街頭への設置は15日深夜から) www.fallas.com	***
10~18日	マグダレナの MARIA 祭 FIESTAS DE LA MAGDALENA	カステヨン・デ・ラ・プラナ www.juntafestes.com	**

未定	国際クラシックカーラリー RALLYE INTERNACIONAL DE COCHES DE EPOCA	シッチェス (バルセロナ県) www.rallyesitges.com	**
----	--	--	----

4月

1～8日	聖週間 SEMANA SANTA	全土 (特に、セビーヤ、クエンカ、マラガ、サモラが有名)	***
22～24日※	アラブ人とキリスト教徒の祭り FIESTAS DE MOROS Y CRISTIANOS	アルコイ (アリカンテ県) www.ajualcoi.org	***
23日※	サン・ジョルディの日 DÍA DE SAN JORDI	バルセロナを中心とするカタルーニャ地方 www.barcelonaturisme.com	*
24～29日	春祭り FERIA DE ABRIL	セビーヤ www.sevilla.org/fiestasmayores	***
未定	カベサ聖母の巡礼 ROMERIA DE NUESTRA SEÑORA DE LA CABEZA	アンドゥーハル (ハエン県) www.turismoandujar.com	**
未定	オリーブ祭り FIESTA DEL OLIVO	モラ・デ・トレド (トレド県) www.mora.es	*

5月

3～13日	コルドバのパティオ祭り FESTIVAL DE LOS PATIOS CORDOBESES	コルドバ www.ayuncordoba.es	**
6～13日	馬祭り FERIA DEL CABALLO	ヘレス・デ・ラ・フロンテーラ www.turismojerez.com	***

* 一般観光行事 ** 全国観光行事 *** 国際観光行事

※の祭りの開催期日は毎年変わりません。

— 賛助会員各社の会員サービス内容 —

◆会員証の提示で、下記賛助会員企業より、表記のサービスが受けられます。

賛助会員	住所	電話番号	会員サービス内容
レストランオリーブ	横浜市西区高島2-5-10	045-441-4996	サングリア1杯無料
カサ・デ・フジモリ関内本店	横浜市中区相生町1-25	045-662-9474	サングリア1杯無料
Bar Español	カサ・デ・フジモリ関内本店前	045-651-1074	サングリア1杯無料
カサ・デ・フジモリ目黒店	JR目黒駅 (東京) 徒歩5分	03-5420-5328	サングリア1杯無料
(有)フレア	鎌倉市大船2-17-8	0467-42-8531	体験費用の割引
日西商事 (うさぎのいる島)	横浜市戸塚区品濃町252-3	070-5024-8196	ワイン1杯無料

//////////////////// 新入会員紹介 //////////////////////

山田 るり子 (Ruriko Yamada)

横浜市鶴見区 2006年9月20日入会

会員の方から昨年2月に逢阪剛氏の講演会にお誘いいただき以来、よく協会のイベントに参加させていただくようになりました。

十代の頃より筋金入りのスペイン好きでしたが、今後ますます血中スペイン濃度をあげるべく努力したいと思っています。よろしくお願ひします。

問屋 正勝 (Masakatsu Toiya)

横浜市瀬谷区 2006年11月10日入会

若いとき、南米に2年間ほど駐在したことがあり、南米とスペインが好きです。

2007年秋、スペインの「エル・カミーノ・デ・サンチャゴ」を歩くつもりです。

福長 昭代 (Akiyo Fukunaga)

横浜市南区 2006年11月10日入会

スペインには観光旅行の経験しかありませんが、中南米には10年以上生活したことがあり、今後ともスペイン語国との関係を深めていきたいと思っています。

また、フラメンコには若い頃から特別の興味を持っており、これに接する機会があることを期待しています。そして、スペインやラテンアメリカ諸国に興味をお持ちの方々との交流ができればと、願っております。

松下 襄 (Noboru Matsushita)

海老名市 2006年12月5日入会

3年前からスペイン語の勉強をし、月曜日と土曜日のスペイン語教室に参加していますが、まだまだ学力不足です。これからは、スペイン語圏の人たちが多く日本に住むと思いますので、お互いに理解し合うのには、スペイン語での会話が大切だと考えます。

これからも勉強を続けたいと思っています。

***** 事務局からのお知らせ *****

◆新年会のご案内・・・2007年1月23日（火）

2007年の新年会を、下記要領で開催いたします。

とくに新入会員の方は、他の会員と親になれる絶好の機会です。ぜひともご参加ください。

開催日時：2007年1月23日（火）17:00～20:00

場 所：驛の食卓（うまやの食卓）（JR桜木町より徒歩5分）
横浜市中区住吉町6-68-1横浜関内地所ビル1F・2F

Tel : 045-641-9901 <http://www.umaya.com/>

会 費：3,500円（同封の振り込み用紙で、1月15日までに郵便局からお振り込みください）

●参加者は「会員証」を必ずご持参ください。当日これをネームカードとして使用します。

◆スペイン大使歓迎会と横浜港大棧橋見学会・・・2007年3月初旬

事務局では当協会名誉顧問のミゲル A. カリエドスペイン大使ご夫妻をお招きして、歓迎会と横浜港大棧橋見学会を計画中です。詳細が決まり次第お知らせいたします。多くの皆さんの参加をお待ちしています。

◆Eメールアドレスを事務局にご登録してください。

事務局からの緊急のお知らせやご案内をするさい、Eメールをお使いの方にはこれでご案内させていただきたいと思えます。そこで、すでに事務局にメールアドレスをご登録の方も含め、すべての会員が、下記事務局のアドレスまで、ご自身のメールアドレスをお知らせ下さい。

事務局長 山崎宗城

◆ビジョン委員会経過報告

横浜スペイン協会が創立15年を経過した現在、今後の協会のあるべき姿や進むべき方向を提言するための、ビジョン委員会が7名の委員で構成されました。その経緯はHoja de Informaciónでお伝えした通りです。2005年12月14日に第1回のミーティングを開催して以来、2006年7月23日まで8回検討会を行い、協会組織や活動内容について様々な意見を集約した報告書が、2006年度上期末に当協会理事会に提出されました。内容に関しては、ビジョン委員会経過中に、協会活動として既に改善された項目もありますが、報告書全体に亘り、担当理事数名で事前に検討した上で今後の協会運営に取り入れるポイント、その他の評価を理事会として行うことになりました。ビジョン委員の皆様ご苦労様でした。（ビジョン委員：石井加奈弘・石川美知子・加瀬隆康・北川鈴子・中村瑛子・山崎宗城・山下幸子）

<編集後記> 明けましておめでとうございます。昨年は「15周年行事」でエネルギーだった一昨年に比べてどちらかと言えば地味？であったように感じた会員もいたのではないのでしょうか。しかし協会の活動は「イベントがすべて」ではなく「日頃の活動の継続」が重要であることはいまでもありません。そのためにも多くの皆様の声を協会に、そしてAIYES通信にお寄せ下さい。今年も協会の発展に期待をしつつ投稿もお待ちしております。（鈴木生雄）

編集委員 渡邊昭夫 久保田誠志 澤田真人 鈴木生雄 高柳治子 武信孝雄 寺原瑛子 宮崎紗伎 山崎宗城 山下幸子 飯塚 劭

* 投稿寄稿宛先 横浜市戸塚区
横浜スペイン協会URL <http://www.yokohama-spain.org>

次号の原稿締切は
3月10日(土)です。
投稿は800字以内、写真1点をお付け下さい。